

氏名	大村 勉
学位(専攻分野の名称)	博士(医学)
学位授与番号	博乙第2349号
学位授与の日付	平成3年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	性成熟に伴う prolactin 分泌予備能の変動
論文審査委員	教授 関場 香 教授 大森弘之 教授 太田善介

### 学位論文内容の要旨

小児の発育及び性成熟に伴う prolactin 分泌予備能の変動に影響を与える因子を明らかにするために、正常小児及び Turner 症候群を対象として、TRH 負荷試験による prolactin 総分泌量 ( $\Sigma$ PRL), LH-RH 負荷試験による LH, FSH 総分泌量 ( $\Sigma$ LH,  $\Sigma$ FSH) を算出した。また、estradiol, testosterone, DHEA-S の基礎値も測定し検討した。

女子では、estradiol,  $\Sigma$ LH, DHEA-S のいずれも  $\Sigma$ PRL と有意の相関を認めたが、重回帰分析では、estradiol が  $\Sigma$ PRL の説明変数として選択された。gonadotropin の高値と estradiol の低値を内分泌学的特徴とする Turner 症候群では、 $\Sigma$ FSH と  $\Sigma$ PRL とは有意の相関を認めた。一方、男子では、estradiol, testosterone, DHEA-S と  $\Sigma$ PRL とは有意の相関は認められなかったが、 $\Sigma$ FSH と  $\Sigma$ PRL とは有意の相関を認めた。

以上より、思春期前～思春期の prolactin 分泌予備能の増大は、女子では estradiol の影響を強く受けているが、両性とも、内因性 LH-RH の影響も受けていると考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は小児の発育及び性成熟に伴うプロラクチン分泌予備能の変動に影響を与える因子を明らかに正常小児及び Turner 症候群を対象とした研究であり、思春期前～思春期のプロラクチン分泌予備能の増大は女子ではエストラジオールの影響を受け、また両性とも内因性エストラジオールの影響を受けていることを明らかにし性成熟過程における分泌能動態に重要な知見を得た業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。